

C分科会 テーマ「女性指導者の育成と拡充」

座 長 佐藤充宏氏

パネリスト 柿原玲子氏、稲富照子氏、紙谷真紀氏

C分科会のテーマのきっかけになったのは、今から6年前の平成14年に発表された「女子団員・女性指導者拡大に対する提言」がもとになっており、このときに女子団員の拡充には女性指導者の育成が必要という観点から、特技指導者だけではなくて男子指導者あるいは育成指導者としての女性指導者のとらえ方が示され、保護者のお母さんや地域で専門的能力を持った女性の積極的な登用が進められてきました。あれから6年、スポーツ少年団の女性指導者の環境はどのように改善されたのかという事業評価という意味も含めて、全国スポーツ少年団指導者協議会の運営委員の3名からの発表があった。

第1部は柿原氏から、女性指導者の抱える生活環境の問題について発表があり、家族や地域の理解や支援があったこと、あるいは男性指導者の理解とその支援があったこと、リーダーから指導者養成というようなシステムも重要だろう、というご意見をいただいた。

特にここでは、多くの保護者が指導者資格を取得しても、子どもが団員をやめたときに同時に指導者としてやめていく問題が提起され、いわゆるそこを支援するための体制づくりが重要だろうという話し合いがなされた。

第2部では稲富氏から、女性指導者の支援づくりという形で女性部会の設立の事例を発表いただいた。この女性部会は市の指導者協議会の中に設置されている女性指導者のための支援組織ですが、各単位団から1名の女性の委員が選出され、そのメンバーが地域の子どもたち、女性指導者、あるいは保護者に対してアプローチするための事業を自分たちで企画している。例えば食事の作り方について、実際に献立をつくってみるとか、あるいは活動前にレクリエーションを実際に自分たちでやってみたり、自己企画として親子スポーツ大会を開いたり、そういう活動を自分たちで企画しながらつくって、そのノウハウを各単位内におろしていく。非常に充実して、今は会員がかなりふえてきているということであった。

第3部として紙谷氏から全国指導者協議会で実施したアンケートの内容から発表をいただいた。アンケートからは、指導者のための支援策として資質向上の研修や情報提供の場をつくっていくことは今後重要な課題になるということと、女性リーダーを育成し、指導者へ育てていくことも非常に大きなポイントであろうという発表をいただいた。

フロアからは、例えば東海ブロックの方では、ブロック研究大会にあわせて、女性部の研究部会のようなものを開催し、医学的な処方とかスキル系も含めて研修を実施しているという報告、あるいはそういう流れの中で単に女性指導者という見方だけではなくて、女性指導者も含めリーダーあるいは男性指導者も含めて指導者の研修という形での融合化を今図っているという報告もあった。

今回の内容は、今後全国指導者協議会の運営委員会で再度検討され、今年度のブロック研究大会のテーマとして上がってくるので、ぜひ再度ブロックの方でこの内容についての検討を依頼し、閉会した。